

インターバンクの声（2015年2月12日）

先週末の堅調な米雇用統計の発表があって以降、やはり米国の利上げ観測が強まって来た。米長期金利の指標となる10年債利回りが2%を超えてきたことで、ドルが改めて120円台に戻って来ている。前日のG20財務相・中央銀行総裁会議でも、一部で懸念されていたような円安についての議論もなかったとのことで、本来であればもう少しドルが持ち上がっても良さそうだが、やはり市場はギリシャの債務問題が気になって仕方がないようだ。目下進行中のユーロ圏財務相会議でギリシャの債務再編計画に結論がでるか否かで対ユーロ以外でのドルの行く手が左右されるが、東京市場の午前中くらいはユーロの動向に注目が集まることになりそうだ。東京からロンドン市場までの間の値動きにもよるが、米地区連銀ラッカー総裁が、6月の利上げについて「魅力的な選択」とも述べたように、ニューヨーク時間に発表される小売上の発表によっては、さらに利上げが近くなるとの見方が強まるかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。